科目名		担当教員	
心理学実験ⅡA		中村　修・ 佐藤　俊人・朝岡　陸	
科目コード	科目単位	履修方法	配当年次
FB3535	1	SR（実験）	２年以上
履修登録条件	「心理学実験ⅠA」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。		
生成 AI 利用レベル	レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目です。2017 年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017 年度以前に入学した方は、「心理学実験Ⅱ」（科目コード：FB2506、2 単位、履修方法 SR）を参照してください。
※本シラバス記載の担当教員から他の福祉心理学科の教員に変更となる場合があります。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

１）心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
２）「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
３）「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
４）実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
５）基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
６）実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「実証的分析力」を身につけてほしい。

■評価の方法・基準

①レポート（客観式 1 課題）解答・合格＋②スクーリング受講（2 日間）＋③実験レポート（2 つ）提出・合格で単位を修得します。

① レポート（客観式レポート）解答・合格：「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。未合格の場合、単位は与えられません。
② スクーリング受講：2 日間受講してください。

③　実験レポート（2 つ）提出・合格：2 種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、またはスクーリング時に指示される期限までに提出して合格することが必要です。1 種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

■科目評価基準

レポート評価 30%＋スクーリング（実験レポート）評価 70%

■受講上の注意

推奨する受講順は「ＩA」→「ＩB」→「ⅡA」→「ⅡB」です。

ただし「ＩA」「ＩB」の受講を後にし「ⅡA」を先に受講する場合は、下記の 2 つを行ってください。

①「ＩA」事前レポートを、「ⅡA」受講前に「TFU オンデマンド」上で解答してください。

※「ⅡA」のレポート課題についても「ⅡA・ⅡB」受講前までの解答を推奨

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ｉ」箇所を熟読してきてください。

■教科書・参考図書

【教科書】（「心理学実験ＩA・ＩB・ⅡB」「心理学研究法 A」と共通）

１）高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　第 3 版』有斐閣アルマ、2025 年

２）『福祉心理学科スタディ・ガイド〔第 4 版〕』東北福祉大学（第 4 版でなくても可）

※「心理学実験ＩA」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（最近の教科書変更時期）2026 年 4 月

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学実験ⅡA・ⅡB と心理学実験ＩA・ＩB が目的とするものは同じで、実施する実験の内容が異なると考えてください。

主な目的は、因果関係を解明する視点と手法の基礎を身につける、ということです。私たちは自分や他人の行動について、「どうして〇〇な行動をするのだろう？」と疑問を持った際、「それは△△が原因ではないのか？」と「想像」することができます。しかし、原因だと思いついたものが「真の原因」なのか、それとも他の原因があるのか、確かめるにはどうすればいいでしょうか？　この「原因と結果の対応」が先に述べた「因果関係」ということなのですが、この「確かめ方」を知っており実際に行ってみることができるかどうかが、「学問として心理学を学んだ者」と「心理（学）好き」との大きな違いになると言えるでしょう。

心理学実験ⅡA・ⅡB では、実験対象とする現象・テーマが異なります。扱う 4 つのテーマは両シラバスの「講義内容・進め方」に示しますが、それぞれのテーマにおいて、どのような行動や心の働きを扱うのか、そこでは何が問題になるのか、どんな疑問がもたれるのか、学んでください。

■講義内容・進め方

このスクーリングでは、「系列学習法」、「概念学習」という 2 つの実験をグループに分かれて体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより変更になります。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業またはグループ作業となります。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション／系列位置効果①	心理学における実験の意義／テーマ及び実験方法の説明
2	系列位置効果②	実験実施
3	系列位置効果③	データ分析とレポートの記述法
4	系列位置効果④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
5	概念学習①	テーマ及び実験方法の説明
6	概念学習②	実験実施
7	概念学習③	データ分析とレポートの記述法
8	概念学習④／まとめ	レポート作成と実験計画の観点からの本テーマの振り返り／2 つのテーマを通したまとめ

▶実験 1「系列位置効果」

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な 3 タイプのうち系列学習法（ある順序で呈示された無意味綴りをその順序どおり覚えさせる実験法）を実習し、系列位置効果（呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるか等で学習しやすさに差があること）について調べます。

▶実験 2「概念学習」

われわれは、いくつかのモノやコトが持つさまざまな特性のうち、ある特性群に注目（抽象）し、また他の特性群を無視（捨象）することによって、任意のカテゴリー（概念）を「心」の中につくりあげていると仮定できます。だからこそ、“アリ”と“ゾウ”を同じ“動物”とみなすことができます（ところで何が同じ?）。こうした概念作用に影響を与える諸要因について、実験的に検討します。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中の 2 つの実験のレポート 100%（それぞれ 100 点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓、4 色ボールペンを持参してください。

※可能な方は、ノートパソコン（「windows」PC）を持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

『福祉心理学科　スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、本冊子巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習９のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	実験と観察（教科書 1）第２章）	実験的研究と観察的研究の長所と短所を学ぶとともに、因果関係と相関関係を分けて考える重要性を、具体的な実験例をもとに理解する。	暴力的な映像をみると暴力的になるのか、暴力的な性格だから暴力的な映像を好むのか。そこをきちんと確かめるような研究計画は簡単そうで難しいものです。因果関係と相関関係の違いを理解しながら、研究計画を立てる際の留意事項を理解しましょう。
2	実証の手続き（教科書 1）第３章）	研究手続きや質問紙調査における質問項目の信頼性と妥当性の重要性について理解する。	例えば「暴力をふるう」かどうかを測定する時、暴力とは具体的にはどのような行動が含まれるかをきちんと概念規定しておく必要があります。子どもの戦いごっこは暴力か？赤ちゃんが母親の顔をたたくのは暴力か？など、それを決めるのは簡単ではありません。研究者の概念規定に沿った研究計画を立てる重要性について考えてみましょう。
3	独立変数の操作（教科書 1）第４章）	実証的研究に必要な独立変数と、その設定の難しさについて理解する。	条件の違いさえあればそれが独立変数として使えるわけではありません。実験、研究を実施する際の独立変数の設定の方法については、細心の注意を払うべきであることを考えてみましょう。
4	従属変数の測定（教科書 1）第５章）	従属変数の設定の方法と、心理尺度の妥当性、信頼性について学ぶ。	従属変数によって、本当に自分の測定したいものが測れているか、本当にその測定結果が安定していて信頼できるものかという点に注意を払うことは大切なことです。さまざまな具体例をもとに、従属変数に対する具体的なイメージを捉えてください。
5	剰余変数の統制①：統制の原理、個体差変数の統制（教科書 1）第６章1、２）	剰余変数とは何か、剰余変数の統制がなぜ必要となるのか、統制にはどのような方法があるのかについて学ぶ。	実験的研究に独立変数と従属変数が必要となることはこれまでの１から４にて学んだわけですが、因果関係の有無を見極めるためにはこれら ２ つの変数に加えて剰余変数について理解しなければなりません。研究における「雑音」にはどのようなものがあるか具体的なイメージを捉えてください。
6	剰余変数の統制②：個体内変動の統制、直接的な統制（教科書 1）第６章3，４）	ミュラーリヤー錯視の例を考えながら、実験の目的ではない剰余変数を統制する工夫について理解する。	実験を実施する際には、繰り返しによる疲労や実施の順番、環境中の騒音など、実験者が独立変数として想定していないような要因も結果に影響します。実験実施の際には、可能な限りこれらの剰余変数を統制することが必要です。どのような工夫が効果的かを考えてみましょう。
7	仮説とその検証（教科書 2）Ⅵ章 43•44 第３ 版ではⅥ章 49・50）	心理学研究における仮説の立て方と、仮説を検証するための方法の重要性について理解する。	どのような心理現象に興味をもっていて、それについて今までどのような研究者がどのような特徴を報告しているか、そしてそこから新たな疑問を持つことが研究のはじまりです。その疑問を仮説として具体的に考え、検証するプロセスについてイメージを捉えましょう。

8	独立変数・従属変数とデータ収集法（教科書2） Ⅵ章45第3版ではⅥ章51）	仮説を検証するために、どのような独立変数、従属変数を使い、どのようにデータを収集するかが研究を進める上でのポイントになる。この一連の流れを理解する。	データをどのように収集し、まとめ、必要に応じて統計的な検定にかける重要性とともに、先行研究論文の探し方や引用、参考の仕方について学びましょう。
9	単位認定レポート課題	スクーリング受講後に「TFU オンデマンド」上で解答、または郵送で提出する。	教科書をよく読んで取り組んでください。

■レポート課題

「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。未合格の場合、単位は与えられません。

※「心理学実験ⅡA・ⅡB」受講前までの解答を推奨

■アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。